

日本玩具博物館連携展示

観覧無料

# ふるさとの七夕

1階歴史工房  
にて開催!

平成27年(2015)7月9日(木)～8月30日(日)

開館時間：午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(ただし7月20日(月・祝)開館、翌7月21日(火)は休館)

ひと月遅れて祝われる七夕の季節に合わせ、日本玩具博物館が長年取り組んできた「七夕コレクション」の中から、播磨・但馬地域に伝わる七夕飾りを展示します。今回は、かつて塩田で栄えた播磨灘沿岸の町々、銀山で栄えた朝来市生野町などに伝承された七夕飾りを中心に紹介。三本の笹飾りの間に細竹やオガラ(麻の茎)を渡して「七夕さんの着物」と呼ばれる紙の着物をずらりと並べる七夕飾りは全国的にも珍しいものです。家庭ではあまり見られなくなった七夕行事を歴史博物館で楽しんでください。



江戸時代、天の織姫に小袖を捧げて裁縫の上達を願う「貸し小袖」の風習がありました。姫路や生野の紙の着物はこの風習を受け継ぐものと考えられています。

昭和30年代製 姫路市飾磨区の七夕船



昭和40年代頃まで飾られていた七夕船。天の川を渡る彦星を運ぶ乗り物、またかつて七夕が盆行事の始まりと見なされていたことから、精霊迎いの船とも想像されています。

昭和20年代製  
大塩の七夕さんの  
着物



明治40年代製  
生野の七夕さん

